

| 授業科目名 | 保育内容表現 I | 担当教員名 | 郡 逸次 |
|---------------|--|---|--|
| 必修/選択 | 必修(幼稚園教諭2種免許/保育士資格) | 開講学年・学期 | 2年 通年(年間開講数 2講座) |
| 科目区分 | 教職・保育に関する科目 | 単位数 | 2単位 |
| 施行規則に定める科目区分等 | 領域及び保育内容の指導法に関する科目-保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む) 保育の内容・方法の理解に関する科目(別表1/2) | 授業方法/担当形態 | 演習 / 単独 |
| | | 特記事項 | ※実務経験のある教員等による授業 保育園園長としての実務経験に加え、声楽家として多くのコンサートの出演経験を活かし、幼児教育の現場での音楽指導を行っている。 ※「保育内容演習」の指導内容を含む |
| 授業の到達目標 | <p>歌う、弾く、表現する保育者になるために講義と楽器の理解と合奏の実践。様々な音楽遊びの実践を通して、子どもたちの感じる心を豊かにするために、保育者自身の感じる心を育てる。幼児に色々な音楽体験を経験させるために保育者自身の表現力、正しい歌い方、ピアノ及び楽器の扱い方など、音楽遊び、歌唱や合奏を通じて指導できる力を身につける。</p> <p>1-保育内容の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</p> <p>(1)各領域のねらい及び内容：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。</p> <p>①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>②当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>④領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2)保育内容の指導方法と保育の構想：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>①幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>②各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>③指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>⑤各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> <p>2-保育内容演習</p> <p>(1)養護及び教育に関わる保育の内容が、それぞれに関連性を持つことを理解し、総合的に保育を展開していくための知識・技術・判断力を習得する。</p> <p>(2)子どもの発達を、保育所保育指針における乳児保育の3つの視点(「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」と、1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育のそれぞれ5つの領域(「健康・人間関係・環境・言葉・表現」)を通して捉え、子どもに対する理解を深めながら、保育の内容について具体的に理解する。</p> <p>(3)上記2に示した保育の内容の視点及び領域を踏まえて、子どもが生活や遊びにおいて体験していることを捉えたとともに、保育に当たって保育士が留意、配慮すべき事項を理解する。</p> <p>(4)子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら、環境の構成、教材や遊具等の活用と工夫、保育の過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の実際について理解する。</p> | | |
| 授業の概要 | <p>保育内容指導法「表現」については、各項目の冒頭の幼稚園教育要領のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させて理解を深める。領域「表現」は、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。歌う、弾く、表現する保育者になるために楽器を通して合奏実技を中心に授業を進める。また様々な音楽遊びを通して子どもたちの感じる心を豊かにするために保育者自身の感じる心を育てる。打楽器から始めいろいろな楽器を体験し、幼児教育における楽器の扱い方についても学習する。</p> | | |
| テキスト | <p>「楽しい音楽表現」高御堂愛子他監修(主文社)、「合奏楽譜ベストセレクション」佐藤千賀子著(ひかりのくに保育ブックス)、「創造性を生む 音楽遊び・表現遊び」須崎朝子・林加奈著・深見友紀子監修(音楽之友社)</p> | | |
| 参考書・参考資料等 | <p>「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」(株式会社チャイルド本社)、音楽遊びプリント・合奏曲などのプリント 『小学生のための器楽合奏名曲集』久隆信 監修、『世界の歌と遊び リトミック・ゲーム67選、ボディーパーカッションから音楽表現まで』神原雅之著『音楽表現』三森桂子・小島エマ編書</p> | | |
| 成績評価の方法 | <p>○授業中の参加意欲30% ○ノート、レポート、作品提出状況・定期試験(実技):50% ○打楽器演奏の創意工夫:20%</p> | | |
| 授業計画 | 授業の内容 | 到達目標番号 | |
| 第1回 | 講義全体について、幼稚園教育要領における幼稚園教育・保育所保育指針の変遷から領域「表現」の理解。表現のねらい及び各領域のねらいの説明と構造の説明。『保育者に必要な事とは?』2歳から5歳児が経験し身に付けていく内容を考慮し、音楽遊びを通して保育者の表現に必要な内容と指導方法。月齢に応じた身体全体を動かすもの、部分を動かすものなどに分類した音楽遊びの体験。指導の方法、評価の在り方の説明。遊びの内容に含まれる領域を理解し、その関連性を把握する。また、これらのことを保育構想として取り入れる方法を身に付ける。 | (1)-①,(1)-②,(1)-③, (2)-①,(2)-⑤ | |
| 第2回 | 身体、声、楽器を使った子どもの表現活動を通して、幼児が成長の過程で身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解する。DVD・CDなどを使い、子どもの声、言葉、発達段階を把握し、教材等を選ぶ方法を身に付ける。幼児期の音域・声域の理解と幼児にとつての歌の段階的指導法と指導の考察/幼児の歌による内容の認識及び発達段階での課題の学びの過程の理解(色々な月例の歌を聴く) | (1)-②,(2)-①,(2)-②, (2)-③ | |
| 第3回 | 簡易楽器の種類と構造。正しい演奏方法の理解と習得 / 楽しく演奏させるために 幼児一人一人の特性、発達段階を踏まえた幼児への指導方法と評価の考え方を具体的に考える。幼児が経験し、身に付けていく内容と指導上の留意点を理解。幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育構想をする。実際に子どもたちが演奏する場面を視聴し具体的な対応の研究。各々の指導案を構築しすべての領域に関わる内容を確認する。 | (1)-②,(1)-③,(2)-①, (2)-②,(2)-③,(2)-⑤ | |
| 第4回 | 乳幼児の発達と生活を踏まえた音楽的表現と0~2歳のワクワク表現遊びの可能性。 0歳児から2歳児の楽器を使つての表現活動。リズム楽器と旋律楽器の効果的使い方を考える。 | | |
| 第5回 | 歌う活動 歌うことについて。わらべ歌あそび。リズムパターンを作ってみよう(2・3・4拍子) DVD・CD等を使いそれぞれのリズムパターンを持った曲、合奏曲、子どもの歌、ピアノ曲を聞きながらその違いを感じる。小太鼓(CDの音楽に合わせて演奏する。)年齢別に音楽体験を構築することを基本軸とし、リズムを理解していく。幼児の和太鼓の演奏などを聞きながら、指導方法と可能性を考察する。 | | |
| 第6回 | 創作リズム遊び。ボディーパーカッションで年齢を考慮した、リズム音楽遊びの指導案を作成し、発表する。幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造の確認。リズム遊びを分析し幼稚園教育における評価の考え方を確認。幼児の認識・思考・動き等を視野に入れた保育構想の考察。DVDを使い子どものリズム遊びの映像の分析と展開を考える。指導案の構成を理解し、リズム遊びを使った保育を想定した指導案を作成。模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。音楽表現の特性に応じた保育実践方法を知り、保育構想の向上に取り組む。 | (1)-①,(1)-②,(1)-③, (2)-①,(2)-②,(2)-③, (2)-④,(2)-⑤ | |
| 第7回 | 手遊び・指遊びの必要性。子ども達に分かりやすい指揮法 合奏や歌などの発表会で指導する方法を身に付ける。 幼児の認識・思考・動き等を視野に入れ子どもの発達段階の特性を踏まえ、集中するための指導の方法を考察する。指揮の必要性を考え、指揮による、音楽表現の可能性を実践し、色々な表現の可能性を模索する。指揮の実践 CD等で色々な音楽を聴きながら指揮の練習をする。これらのことを保育全体に取り込み保育構成の向上を目指す。 | (2)-①,(2)-⑤ | |
| 第8回 | 障害児・障害者との関わりと音楽遊び。合奏で注意すること DVD等で、子どもたちの楽器遊びを視聴し、楽器を使った表現方法の考察 / 聞こえる音を再生しよう 合奏における幼児への指導法を考え、指導案を作成する。幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本の確認と領域表現のねらい及び内容並びに全体構造の理解の確認。表現のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。この保育実践における子どもの動向を知り、保育構想の向上に取り組む。 | (1)-①,(1)-②,(2)-⑤ | |

| 授業計画 | 授業の内容 | 到達目標番号 |
|------|--|---|
| 第9回 | 打楽器と旋律楽器 / 合奏のパート分け 2歳～5歳の合奏の指導案の作成と発表。自らの演奏の経験を通して模擬保育を考察し改善点を発見する。幼稚園教育における評価の考え方を理解する。各領域と表現において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性の確認と小学校の教科とのつながりを理解する。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解し、合奏の指導を考察する。動く活動において各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を示し、保育の構想に活用するように促す。 | (1)-③,(1)-④,(2)-①,(2)-② |
| 第10回 | 合奏練習及び指揮法 表現を意識し、演奏のバランスを考える 自分の演奏だけではなく、周りの楽器の演奏を聴きながらハーモニーを理解する。楽曲分析による各旋律の重要性を認識する。領域表現のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 | (1)-② |
| 第11回 | 鍵盤ハーモニカの使い方と演奏（指の使い方、息の使い方、タンキョウ、3つの技術の習得） 幼児の理解を踏まえ、その具体的指導方法を考える。当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。DVD等を使用し子どもの演奏を通して領域表現の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。この実践をとおして実際の保育の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。 | (1)-②,(2)-②,(2)-⑤ |
| 第12回 | 課題曲発表 音楽会に向けて / 自由曲の決定 子どもの為の演奏を意識したプログラムの構築 | |
| 第13回 | 課題曲練習 / 自由曲の編曲 対象年齢、指揮法、楽曲分析バランスを考慮した編曲、奏法、記譜法、指導法、表現、言葉の使い方などを踏まえ、合奏曲を完成させる。 0・1歳児のリトミックと2歳児～5歳児のリトミック | |
| 第14回 | 音楽遊び全身を使う遊び「アールプス一万尺、かなずちトントン、かもつれしゃ、ケンパであそぶ、ゆらゆらポートバスごっこ、もうじゅうがりにいこうよ、ロンドン橋」 課題曲練習 / 楽器編成を決める 実技テスト練習 指導者として具体的な指導場面を想定し、領域のねらいや内容を理解した上で、幼児が音楽体験を出来るように指導上の留意点を理解し演奏する。領域表現において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解した上で段階的な指導を理解し実践する。 | (1)-④ |
| 第15回 | 絵描き歌「あひる、うちわ、おじさん、おぼけ、ぞうさん、たぬき、鳥コッコ、へのへのもへじ、ぼうがいつぼんあったとき、ねこ」 指揮・合奏曲の復習、質疑応答 実技テスト 総復習 領域表現音楽において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解の確認と幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の重要性の確認。 | (1)-④,(2)-① |
| 定期試験 | 実技試験 | |
| 第16回 | 後期の講義について / 表現音楽のねらいと内容を再確認する。効果音の色々 劇、方言遊びに使えるメロディーパターン。 合奏について / 楽譜配布 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本の確認と、すべての領域のねらい及び内容と構造を理解の確認。1歳から2歳までの認識・思考・動き等を踏まえた楽器遊びの方法と実践と指導案の作成。模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。 | (1)-①,(2)-④ |
| 第17回 | 2歳から3歳までの楽器遊びの実践と指導案、指導案を書く時の注意。 合奏、パート練習 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。領域表現のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。領域表現の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する為の考察。指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成する。模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。これらの活動を通して保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む姿勢を養う。 | (1)-①,(1)-②,(1)-③ |
| 第18回 | 音楽を使った、ペーパースト・パネルシアター・ミュージックパネルの可能性。 合奏練習 伴奏者 指揮者 決定 / 4歳から5歳の指導上の留意点を踏まえた楽器遊びの実践と指導案。パート別 演奏発表 | |
| 第19回 | 子どもの為の音楽会に向けて、パートわけとパート別の練習と合わせ練習。劇遊びと音楽の可能性を知る。幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解する。領域表現のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。幼稚園教育における評価の考え方を理解している。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。領域表現の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する為の考察。指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することが出来る | (1)-①,(1)-②,(1)-③,(2)-①,(2)-②,(2)-③ |
| 第20回 | 0歳から1歳児との音楽遊び 打楽器と旋律楽器など色々な楽器に挑戦する。幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域表現のねらい及び内容並びに全体構造の確認。0歳～1歳の合奏遊び 表現音楽におけるねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。始める時の言葉の使い方。幼稚園教育における評価の考え方を理解する。幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解する。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解する。領域表現の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する為の考察。指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成する。模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。これらの活動を通して保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む姿勢を養う。 | (1)-③ |
| 第21回 | 2歳、3歳児の音楽遊び 打楽器と旋律楽器など色々な楽器に挑戦する。幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域表現のねらい及び内容並びに全体構造の確認。2歳～5歳の合奏遊び 表現音楽におけるねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。始める時の言葉の使い方。幼稚園教育における評価の考え方を理解する。幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解する。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解する。領域表現の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する為の考察。指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成する。模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。これらの活動を通して保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む姿勢を養う。 | (1)-③ |
| 第22回 | 4歳、5歳児の音楽遊び 打楽器と旋律楽器など色々な楽器に挑戦する。幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域表現のねらい及び内容並びに全体構造の確認。2歳～5歳の合奏遊び 表現音楽におけるねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。始める時の言葉の使い方。幼稚園教育における評価の考え方を理解する。幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解する。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解する。領域表現の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する為の考察。指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成する。模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。これらの活動を通して保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む姿勢を養う。 | (1)-③ |
| 第23回 | 0歳から5歳児との音楽遊び発表 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域表現のねらい及び内容並びに全体構造の確認。2歳～5歳の合奏遊び 表現音楽におけるねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。始める時の言葉の使い方。幼稚園教育における評価の考え方を理解する。幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解する。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解する。領域表現の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する為の考察。指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成する。模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。これらの活動を通して保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む姿勢を養う。 | (1)-①,(1)-②,(1)-③,(1)-④,(2)-①,(2)-②,(2)-③,(2)-④,(2)-⑤ |
| 第24回 | 創造的保育、音楽教育とは 小グループによる合奏練習 『音ってなあにパート1』 子どもの音の発見から音の再生まで指導案を研究する 簡単な曲を即興で演奏する。 幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解した上で幼児が演奏できる簡単な曲を作成する。 | (2)-① |
| 第25回 | 0歳から5歳児の楽器遊び グループワーク 小グループによる合奏練習 『音ってなあにパート2』発見した音から展開していく方法を探る グループに分かれて、1曲を楽譜なしで練習 この時、幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解した上でグループワークを行う。 | (1)-② |
| 第26回 | 音楽療法的関わりの可能性。グループ発表 / 実技試験課題発表 練習 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造の確認。領域表現のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解の確認。 | (1)-①,(1)-② |
| 第27回 | レゾエリミアの保育と考え方 童謡の作曲 0歳から5歳児の考え方、成長過程、思考、動き、小学校とのつながり、領域のねらい及び内容を総合的に考慮する。 童謡の作り方 / 歌詞を考える 幼児の感じ方、思考、動き等を踏まえ 経験や体験を通して身に付けていく内容を理解した上で幼児の歌を作る。幼稚園教育における評価の考え方を理解し領域表現で幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解した上で作成する。 | (1)-③,(1)-④ |

| 授業計画 | 授業の内容 | 到達目標番号 |
|------|--|---|
| 第28回 | 表現活動の領域間の関連に関して例を挙げ考える。各領域の理解・幼児の発達や学びの過程を考慮し具体的な指導場面を想定して教材を作成する。童謡の分析／ことばからリズムを見つける。保育園・幼稚園から小学校へのつながりを理解し、段階的な発達、気持ちの変化を考慮し楽曲を考える。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の重要性の理解と領域表現の特性や幼児の体験との関連を考慮した教材の活用法を理解し、保育の構想に活用する。 | (2)-①,(2)-② |
| 第29回 | さくらさくらんぼの保育方法と実際。DVDを見ながら考える。幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造の確認。領域表現のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解した作品になっているか考察。幼稚園教育における評価の考え方を理解する。各々の作品を通して領域表現で幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解する。幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解して作品になっているかの考察。領域表現の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材を活用し、保育の構想に活用することができるかを考察する。指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成する実力を身に付ける。作品を使い、模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。領域表現の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。 | (1)-①,(1)-②,(1)-③,(1)-④,(2)-①,(2)-②,(2)-③,(2)-④,(2)-⑤ |
| 第30回 | 音楽遊びの発表会総まとめ 実技テスト 教育現場での全体的な保育構想を理解し、0歳から5歳児対象の音楽発表会を構成し、発表する。幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。②当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。④領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科とのつながりを理解している。⑤幼児の認識・思想・動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。⑥各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育の構想に活用することができる。⑦指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することが出来る⑧模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。⑨各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことが出来る。 | (1)-①,(1)-②,(1)-③,(1)-④,(2)-①,(2)-②,(2)-③,(2)-④,(2)-⑤ |
| 定期試験 | 実技試験 | |